

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者ケアセンター こぶし園	代表者	竹之内隆明	法人・ 事業所 の特徴	築き上げてきた暮らしを支える。ご利用者の生活・介護（暮らし）を支えることを念頭に置き、日常生活の支援を行っています。中重度方でも安心してご自宅での生活が継続できるよう訪問を中心とし通い・宿泊の利用調整を行い援助しております。今まで暮らしてきた生活のスタイルを崩さず要介護状態となってもご自宅で暮らせるように、ご利用者一人一人に寄り添った柔軟な支援をしています。また複合型施設の特徴を生かし、他事業所とのご利用者の交流や地域の方の協力のもとさまざまなアクティビティを取り入れ活動を行っています。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護千秋	管理者	大矢泰三		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	2人	1人	1人	1人	1人	0人	2人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	現場職員のスキルアップと声により反映されやすいよう、可能な限り介護職員においても運営推進会議に出席をする。	毎回管理者以外にも1名の介護職員から出席をしてもらっている。運営推進会議の役割や運用方法、地域社会資源との結びつきなどを考えてもらう機会となっている。	今後も運営推進会議を通じて介護職員が努力し頑張っているところを伝えながら、委員からのアドバイスをもとにさらにスキルアップしていけるようにしていくとよい。	介護職員の運営推進会議への出席は次年度以降も継続していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	毎年実施している地域交流イベントについて引き続き皆様から足を運んでいただけるような内容を立案、実施していきたい。また、地域向けの講座やオレンジカフェなどでPRもしていきたい。	11/16（土）に実施。地域のなかの心配な方にも声をかけ、参加いただけるよう働きかけを行った。また、地域サロンなどでチラシを配布しPRも行ったが、徒歩圏内にはないことで集客までには至っていない。	イオン側から車で来ると道路からセンターへの出入口近くにある看板が木の枝葉に邪魔されて見えにくい。	隣のワークセンターとも相談し、看板が見えやすく通行が安全にできるよう対応を検討したい。
C. 事業所と地域のかかわり	介護が必要となる以前から、ちょっとした相談にも応じることができるように地域に出向いて実施する啓発活動の中でゆっくりと個別相談にも応じる時間を設けていき、また、その機能を医療機関との連携の中でも展開できないか検討したい。	地域サロンやオレンジカフェなどに職員が行き、相談・対応する機会を設けたが、実際の相談は1件だけであった。内容から小規模の対象ではなかったため、より適したサービスを紹介させていたが、今後に期待できそうである。相談機関としては包括があるわけだが、医療機関を受診しそのまま相談できるような仕組みが可能なかどうか引き続き考えていきたい。	地域住民（患者）に対し医療・福祉の情報発信がよりの確に迅速に行われ知識を深めていただく機会を設けたい。利用者、患者の知識を深めることは介護給付の適正化にも繋がる。それぞれの立場での課題を持ち寄り、情報を共有しながら医療と福祉、地域との連携強化を図っていきたい。	地域医療機関において介護保険に関する学習会や患者に向けた教室などを活用し、包括とも協力しながら情報発信の機会とすることで、より正しい理解、迅速な対応に繋がっていききたい。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	近隣事業所が実施しているオレンジカフェに運営側としても何か協力ができないか打診し参加、その中で情報収集を行っていく。	まちなねオレンジカフェ大島へ運営側として職員が交代で参加。実際には相談らしいものはなく、介護の苦労話を傾聴するような機会が多かった。介護職員にとっては新鮮なことであり良い経験となっている。	登録以前の方に対してでもできるだけの協力をお願いしており、ありがたく感じている。その方以外にも小規模にしかお願いできないようなケースが増えていくのではないかと思われる。	地域の心配な方への支援については次年度以降も運営推進会議の中で事例紹介や経過報告などをさせていただきながらアドバイスを受け、より望ましい対応を継続して行っていきたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	次年度以降も登録者以外の方への支援について事例検討をしながら課題抽出・改善に向け運営推進会議において考える機会を設ける。	第3回の運営推進会議で気にかけているケースについて紹介をさせていただいた。今後も気になる方がいた場合には包括や関係機関とも情報共有させていただき、いざという時には円滑に対応がとれるよう日々の連携強化に努めていきたい。	課題がみえた時にそれを共有し解決に向けて動き出せるようにするのも運営推進会議の役割として期待できるのではないか。	この運営推進会議が単に事業所からの報告で終わることなく、各方面からの課題に対し活発に意見交換が行われ、地域力の向上に繋がるような機会としていくためにも、包括や民生委員からも協力（心配な方などの情報提供など）いただき、委員全員が活用できる会議にしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	町内会長や民生委員以外の地域住民にも千秋と地域との非常災害時における連携について情報発信できるよう、地域の防災訓練の中で紹介をさせていただく。その内容や方法については町内会長と相談・検討していく。	今年度もお互いの防災訓練に参加をさせていただき情報提供、共有をさせていただいた。その中で町内会長からは訓練の内容や情報の共有も重要だが、それ以上に万一の時には「助けて」と言いやすいようにこのような機会を定期的に持つことが大切であるというお言葉を頂戴した。	地域の避難場所としては大島小学校があるが、介護が必要な方の避難先として認識が進んでいくとよい。水害時の地域関係者とのやり取りはスピードがあってよかった。被害はなかったが千秋内でも状況を判断し1Fで生活されている利用者を2Fへ避難させたり、小規模においては認知症独居者など泊りに変更され必要な対応がとられていた。	事業所種別や法人で区別することなく、非常災害時においてはサービス事業所同士が協力して要支援・要介護状態にある地域住民を支援できるよう平時からの連携の中で関係性を強化していく。いざという時に困っていることが相談できるように顔を合わせられるような研修などの機会があれば参加しコミュニケーションをとる。